

岡山県総合文化センターニュース

県内美術館所蔵作品紹介

吉永町美術館

『武元登々庵画像』

たけもととうとうあんがぞう
おおにしけいさい
大西圭齋 作

この作品は、登々庵が松島、象潟（秋田県）や、旧師志村東州を訪れた折に出会った西圭齋（大西圭齋）によって、仙台の泰涼精舎（瑞鳳寺）で描かれたものである。

登々庵は病身であったため、家督を弟の君立に譲り、自分の好きな道に精進すれば調子がよいと理由をつけ遊学して歩いたが、両親にかけた苦労や心配は髪の毛を抜いても抜きたらないというわびの気持ちから丸坊主にしているが、とても34歳には見えず老成したおだやかな顔で50歳以上に見える。此の世の中の欲望を絶ち、心の赴くまま、旅をしている登々庵の姿が思い浮かぶ。

〔寛政12年(1800年)6月〕

写真...岡山県立博物館提供



〒709-0224 和気郡吉永町吉永中885
TEL(0869)84-2511

吉永町美術館

吉永町美術館は、同町出身で漢詩人・書家・医者 of 武元登々庵(1767～1818)と、閑谷学校に学び、兄登々庵らと村人の学習仲間である天神講の講釈人として活躍した武元君立(1770～1820)の業績を顕彰し、平成2年に書道中心の美術館として開館した。併せて、地域の芸術文化振興のため、“地域住民の参加スペース”としてすっかり地域に定着している。

交通 山陽本線吉永駅下車徒歩8分 山陽自動車道
和気インターより約15分

平成12年度岡山県総合文化センター事業概要

高度情報化社会、国際化社会、長寿社会等の到来により、人々の学習意欲が高まり生涯学習時代を迎えています。

このような時代背景のもと、情報・文化の中核施設である岡山県総合文化センターの役割は時代の変化とともに重要性を増してきています。県民の方々が気軽に利用できる環境づくりを進めるとともに、活力ある図書館活動、芸術文化活動等の諸事業を推進し心の豊かさが実感できる文化の向上に努めたいと考えています。

各部門の紹介

図書館活動の充実

県民の方々からの情報要求に応えるために、また市町村の図書館サービスの支援を行い、高度なレファレンスサービスにも対応できるよう基本図書、参考図書、学術書、郷土資料及び国際資料等の充実に努めます。

コンピュータシステムの運用でスピーディな資料提供を実現します。

県内外公共図書館等とのコンピュータネットワークの拡充により、全国的な図書館活動の推進に努めます。

インターネット上に開設している文化センターのホームページの充実に図り、新しい図書館サービスの構築を目指します。

国際理解講座として「世界お話の旅」を年3回開催します。

普及活動の充実

全県的な図書館普及活動の推進を図るため市町村への支援の充実に努めています。

県内の公共図書館に対しては、巡回協力事業を通じて、図書館運営の相談助言に努めています。

県内の公共図書館・公民館図書室・へき地校等の読書活動を充実させるため、配本所業務による団体貸出での支援も行います。

平成12年度 ギャラリー・ホールの主催事業

ギャラリー部門

「現代作家の眼」

アートウェーブ岡山・クラフト選抜中央展

会 期：平成12年10月18日(水)～29日(日)

会 場：岡山県総合文化センター第一展示室

内 容：県内活躍中の工芸（クラフト）作家の陶芸・木工・金工・染色・レザークラフト等の作品、約120点を展示する。

「現代作家の眼」

アートウェーブ岡山・巡回展 玉野

会 期：平成13年1月17日(水)～28日(日)

会 場：玉野市文化会館

(〒706-0002 玉野市築港1丁目10-10)

内 容：県内活躍中の詩人と美術作家がペアとなり、同じテーマのもとに共同制作した作品、約40点を展示する。

(なお、勝央町郷土美術館、高梁市歴史美術館に巡回して展示する予定)

ホール部門

文化センター合唱団 第35回定期演奏会

日 時：平成12年5月27日(土)

午後6時30分開演

会 場：岡山県総合文化センター ホール

文化センター土曜劇場

第310回 6月9日(金)～11日(日)

岡山県高等学校演劇協議会 公演

第311回 8月26日(土)・27日(日)

岡山大学演劇部 公演

第312回 9月9日(土)・10日(日)

岡山ろう者劇団『夢二』&

びっくり座ユニークシアター 公演

第313回 9月29日(金)～10月1日(日)

岡山県高等学校演劇協議会 公演

第314回 10月28日(土)・29日(日)

CARAT プロジェクトカンパニー 公演

第315回 11月25日(土)・26日(日)

演劇工舎「ゆめ」 公演

第316回 12月9日(土)・10日(日)

ノートルダム清心女子大学日本語演劇部 公演

第317回 1月27日(土)・28日(日)

劇団 ひびき 公演

おがやま人物往来 ⑤⑤

は にう えい めい
羽生永明



羽生永明
『平賀元義』
(山陽新聞社刊)
より転載

前回の塚本吉彦と同じく吉備史談会の主要メンバーの一人で、平賀元義を世に紹介した功績で知られる。

明治元年(1868)に長野県で生まれる。本名は芳太郎、号は東洋。明治42年(1909)に永明と改名した。父は長野県飯田藩堀家臣。

長野県尋常師範学校、国学院本科、選科を卒業した後、はじめ岩手県尋常師範学校に就職。

岡山との縁は、明治29年(1896)に岡山県岡山尋常中学校(岡山朝日高等学校の前身)の教諭として赴任したときに始まる。3年後の明治32年(1899)、郷土の歴史研究グループ吉備史談会が発足、それに幹事として参加し、岡山県の歌人、平賀元義について研究した。

羽生の研究成果は、明治33年(1900)1月21日より山陽新報上で「恋の平賀元義」と題して発表される。羽生の発表の形では8回だったが、それ以降井上通泰らからの意見・疑問が数多く新聞社に寄せられたため、思いがけず紙上

で議論が沸騰し、最終的に26回の連載になった。これにより平賀元義という歌人を知った正岡子規は、明治34年に新聞「日本」での連載「墨汁一滴」で13回にわたって元義を紹介、その作品を絶賛している。

その後、羽生は長野で職を得て帰郷するが、明治39年(1906)には再度来岡する。金川中学校、西大寺高等女学校に教師として勤めながら、現在の久米郡柵原町の矢吹家に伝わる元義の数百部に及ぶ著作を調査した。これは後「平賀元義伝」としてまとめられるが、羽生本人の死去(昭和5年)、太平洋戦争などを経て世に出ることがなかったため、元義研究家の間では「幻の稿本」と呼ばれていた。

その原稿は昭和53年(1978)に東京の羽生家で発見され、昭和61年(1986)に山陽新聞社から「平賀元義」として出版された。元義研究の基本図書として高く評価されている。

なお、矢吹家に伝わる元義の原稿は、写真製本したものを当館で見ることができる。

参考文献

羽生永明の著作としては前出『平賀元義』のほか『平賀元義研究資料』羽生永明著 文化センター製作がある。正岡子規の「墨汁一滴」は『子規全集第11巻』/講談社1975に収録されている。

当館の参考図書 ⑩⑨

聖書百科全書

(ジョン・ボウカー編著 三省堂 2000)

「聖書を手っ取り早く詳しく理解することができる本はないか?」こういった要望に応える本が本書であろう。

『旧約聖書』と『新約聖書』に出てくるすべての文書を、聖書に登場する目次の順番に取り上げ、計219のテーマごとに見開き2ページを使って解説している。

オールカラーなので見やすい上に、使われている図版も600点以上と充実している。



編著者のジョン・ボウカー氏は、イギリスの宗教学の権威。

原著は98年にイギリスで出版されたのを皮切りに、すでに10か国以上で出版されている。

巻末に収められている聖書に関連する人名、地名、用語、文献目録などの参考資料も充実しており、聖書のレファレンスツールとして大変有用である。

新着郷土資料紹介

岡山県展望2000 オカニチ出版編 岡山日日新聞社刊 1999 1067頁

瀬戸内地理 第8巻 地域地理学会刊 1999 64頁

岡山城と後楽園 平成11年度岡山後楽園築庭300年記念特別展図録 岡山県立博物館編 岡山県立博物館刊 2000 67頁

岡山県環境白書 平成11年版 岡山市刊 1999 202頁

「お役所の仕事」探検記(ものがたり) Part 2 岡山をもっと大好きなまちに 「岡山市政の今日と明日」編集委員会編 自治体研究社刊 1999 476頁

岡山企業年報 2000年版 瀬戸内経済レポート刊 1999 492頁

備前の名医難波抱節 中山沃著 山陽新聞社

刊 2000 251頁

岡山後楽園の四季 難波由城雄著 吉備人出版刊 2000 122頁

岡山市まちづくり賞 平成11年度表彰作品集 岡山市都市整備局建築部建築指導課刊 2000 12頁

岡山県優良企業ガイド 2001年版 山陽新聞社編 山陽新聞社刊 143頁

チャレンジ精神で切り拓く明日の岡山 石井正弘[講演] 内外情勢調査会刊 [1999] 61頁

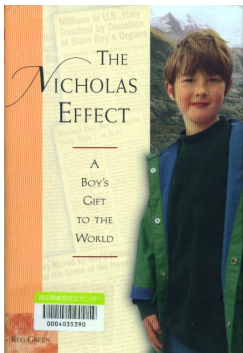
岡山県の墓塔めぐり 幽界にその眠りを訪ねる 小出公大著 小出公大刊 2000 107頁

岡山の記憶 第2号 「岡山の記憶」編集フォーラム編 岡山・一五年戦争資料センター刊 2000 136頁

海っ子山っ子 27号 小教研倉敷支会複式部会、岡山県へき連倉敷支部編 小教研倉敷支会複式部会刊 2000 127頁

外国語資料紹介

The Nicholas Effect : a boy's gift to the world (by Reg Green / O'Reilly / 1999)



1994年、カリフォルニア州出身の少年、ニコラス・グリーンは、イタリアで家族と休暇を楽しんでいるときに、突然、強盗に車を襲撃され、流れ弾を受けて命を失った。両親は、ニコラスの臓器を移植を待っている7人

のイタリア人に提供することに同意した。息子を失った悲しみを、愛と希望にかえたグリーン家の人々の勇気ある選択に全世界が注目した、感動的な実話である。

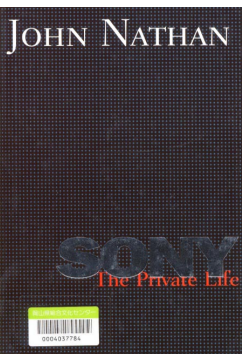
Sony : the private life (by John Nathan / Harper Collins / 1999)

戦後の荒廃した東京で小さなスタートを切り、瞬く間にエレクトロニクス分野のトップ企業に急成長したSonyの成功談は、今世紀最大の神話である。Sonyが、常に時代の最先端を行くヒット商品(現在はプレステーション2)を

次々と産みだし、世界中から注目を浴びていることは周知のことである。日本文化にも造詣の深い、John Nathan氏が、Sonyの軌跡を事細かに分析している。

Omelettes, soufflés & frittatas (by Lou Seibert Pappas / Chronicle Books / 1999)

卵は、安く手に入り、しかも栄養価が高くて、どんな料理にも使えるキッチンの万能選手である。この卵をメインとして使う三大料理、オムレツ、スフレ、フリッタータを特集したの



が、本書である。シンプルなチーズとハーブのオムレツ。トマトとバジルとズッキーニのフリッタータ(固めの厚焼き卵)。チョコレート・

アーモンド・スフレなど。卵料理の好きな人に特にお勧めしたい。

随想

馬について

井 奥 行 彦（日本現代詩人会会員）



私は馬が好きだ。私の干支が馬だからそれとなくひいき目に見るのかも知れないがそればかりではないようだ。馬は動物の中で一番かっこいいと伊藤整氏が言っていた。馬は笑う、笑いは批評で最高の知能だというのだ。賢いから好きなのかという

とそうばかりでもない。とにかく馬が大好きなのだ。

私は昭和5年福岡県生まれである。子供の頃馬は街中あちこちにいる、馬と人とは同居していた。当時馬は最も日常的な運搬手段で、特に我々の屎尿の桶を馬車に乗せて引いていた。だから家を出ると馬はいたし、昆虫捕りに行く時などは馬車を追って山へ急いだ。

戦争は次第に激しくなった。街々で多くの出征兵士が送られていったが、出征するのは人ばかりではなかった。馬達も腹に日の丸の旗を巻かれ、貨車に横積みされて引かれていった。

今日はここに、馬についての私の散文詩を記させていだこう。

馬の思い出

子供の頃、私はよく馬に出合った。町で戸ごとに集めた肥の桶を積んだ荷車を引いていた。長い石材を引いていることもあった。

町をはずれると馬方は歩かない。馬に歩かせ、自分は荷車の端に腰掛けて足をぶらぶらさせながら手綱を使う。菜種の咲く頃など、馬の歩みは鈍くなる。馬方が力いっぱい鞭を当てると、その時だけ馬は小走りになった。馬車の立てた埃で、霞んだ山がさらに霞む。埃がおさまると、空にまぎれるほどの薄い月がかかっていた。

丘の裾を通り、宮の森の前を抜け、坂を下りて上り、再び土手に出る。見通しが開けると馬

方は居眠りをする。それを見計らって私は荷車の後ろにぶら下がり、目を覚ました馬方に怒鳴られる。幾度かそれを繰り返す。馬車が土橋を渡ると、川のほとりに薪を積み重ねた家があり、発酵を始めた脂が鼻をついた。そこで馬と別れて山道を辿る。別れ際に私を見詰める馬の眼は細く思われた。

馬方は私の家の横に馬車を止めることにしていた。そこで手綱を樹に結び、戸ごとの肥を集めて来て、荷車に一つ一つの桶を満たし、わらを挟んで蓋を叩く。桶がすべて満たされる頃は昼を過ぎていた。それから馬の両脇に荷車の轆を掛ける。馬方はそのまま酒を飲みに出かけることがあった。

馬は飼い葉桶に顔を入れ、たわしのような舌で内側を撫でるが、とっくに空になった桶は乾いた音を立てるばかりだ。細い雨になり、断続的に大粒になった。濡れた馬の骨が浮き立つようになると、馬は前肢を踏み続け、次に後肢で前へ前へと地面を掘った。

雨の日の日暮れは早い。馬方が戻り、人参を与えたが嗅ごうともしない。手綱を当て、鞭を当て、轡を力まかせに引くが、掘った地面で馬は後肢をふんばり、後ずさった荷車が垣を壊した。背にテントのようなものを着せて馬方は去ったが、馬はそれをも振り払った。風邪をひいた馬の鼻が、明け方の雨の音にまじって鳴った。

その頃からであったろう。馬に出合うことの少なくなったのは。幾頭もが腹に血の色の旗を巻かれ、町はずれの駅で貨車に積み、家族の振る小旗を眼球に映しながら出征していくのを見たのも間もなくである。

人事異動

- ▶ 転入 ○ 副館長 土井三昭(財務課) ○ 整理課長 岡長平(総務課) ○ 総務課課長補佐 笏本弘忠(岡山盲学校) ○ 奉仕課司書(主任) 寺前華奈江(倉敷市立中央図書館) ○ 総務課主事 村田真一(玉野高校) 中江岳(落合高校) ○ 整理課司書 塚本明美(倉敷工業高校) ○ 奉仕課司書 佐藤公美(倉敷商業高校)
- ▶ 転出 ○ 琴浦高校 岡野礼三(総務課) ○ 岡

山南高校 岡野映子(総務課) 坂井理恵(整理課) ○ 指導課 藤原由典(総務課) ○ 倉敷市立中央図書館 稲葉三千代(奉仕課) ○ 岡山一宮高校 川合博子(奉仕課)

▶ 退職 ○ 山本周二(副館長) ○ 保田寛(総括司書) (内は前任)

▶ 館内異動 総括司書(整理課長) 渡川広光、整理課課長補佐(収書係長) 片山一生、整理係司書 清友久美子、館内奉仕係司書 由良敏子、高木夕子、普及係司書 西山由貴

平成12年

6・7月の催物案内

岡山県総合文化センター

ギャラリー（開場時間 9：00～17：00）

| 期間 (週) | 第 1 展 示 室 | | 第 2 展 示 室 | |
|---------------|--|---|---|---|
| | 大 室 | 小 室 | 大 室 | 小 室 |
| 5/30～ 6/4 | 第59回創元展（巡回展） 油彩100点、水彩15点、版画5点 （社）創元会 一般700円、学生500円、老人・障害者無料、会員300円 | | | |
| 6/6～ 6/11 | 第66回東光展岡山会場（巡回展） 油絵160点 （社）東光会岡山支部 一般600円、学生300円、小中学生200円、老人無料、会員200円 | | | |
| 6/13～ 6/18 | 第52回朝陽書道会本部展 かなを中心とした書作品290点 朝陽書道会 入場無料 | | | |
| 6/20～ 6/25 | 岡山光風会展 油絵等50点 （社）光風会岡山支部 一般600円・高校生以下及び老人、会員無料 | 第30回水墨画・開谷彫芳石会展 水墨画120点、木彫100点 芳石会連合会 入場無料 | | |
| 6/27～ 7/2 | 第34回岡山写真家集団展 写真179点 岡山写真家集団 入場無料 | 第29回独立書人岡山支部展 書道60点 独立書人岡山支部 入場無料 | ふる里彫り同好会作品展 木彫300点 ふる里彫り同好会 入場無料 | |
| 7/4～ 7/9 | 第45回新世紀展（巡回展） 油絵・水彩画92点 新世紀美術協会岡山支部 一般700円・大学生、高校生300円・小中学生100円：前売り（一般）600円 | | | |
| 7/11～ 7/16 | 岡山美術研究会第82回展 油彩65点 岡山美術研究会 入場無料 | 第32回道文会展 書道230点 道文会 入場無料 | | |
| 7/18～ 7/23 | 第18回墨光会展 書道65点 墨光会 入場無料 | 彩彩会展 日本画50点 彩彩会 入場無料 | 2000 AJAC岡山展（巡回展） 絵画100点・彫塑10点 AJAC岡山 入場無料 | 32'展 油絵15点 デザイン5点 水彩10点 イラスト10点 32'展実行委員会 入場無料 |
| 7/25～ 7/30 | 第23回瀬戸内版画展 版画100点 瀬戸内版画会 入場無料 | 七彩展 油絵30点 七彩会 入場無料 | 第31回清尚会書道展（特別展示：高田子遊） 書道100点 清尚会 入場無料 | |

ホール（固定席282席）

| 日(曜) | 催 物 | 時 間 | 料 金 | 主 催 者 |
|--------------------------|---|----------------------------|--------|--------------------------|
| 6/1(木) | ホ ー ル 使 用 抽 選 会 (対象期間：10/1～12/27) | 9：00～12：00 | | 総務課（文化係） |
| 6/3(土) | 岡大 ROCK LIVE | 13：00～16：00 | 無 料 | 岡大軽音口ック |
| 6/9(金) 10(土) 11(日) | 第310回文化センター土曜劇場 (岡山県高等学校演劇協議会 参加17高校公演) | 各校60分 詳細未定 | 無 料 | 岡山県総合文化センター |
| 6/17(土) | バンド発表会（コンサート） | 13：00～16：00 | 500円 | ノートルダム清心女子大学 軽音楽部パピルス |
| 6/18(日) | ピアノ・エレクトーン発表会 | 13：30～16：30 | 無 料 | 浅井・石井 |
| 6/24(土) | 音楽演奏会 | 13：00～16：30 | 300円 | 理大RJB・就実おもちゃ箱 |
| 6/25(日) | 羊の会音楽教室（第15回）発表会 | 未 定 | 無 料 | 羊の会音楽教室 |
| 7/1(土) | 軽音楽バンド定期演奏発表会 | 13：00～18：00 | 無 料 | 鹿田軽音楽部 |
| 7/8(土) | 女性コーラス | 未 定 | 無 料 | 社会保険センター女性コーラス |
| 7/15(土) 16(日) | 演劇公演「寿歌（ほぎうた）」 | 18：00～19：30 13：00～14：30 | 1,000円 | S O F T G E A R |
| 7/20(木) | ピアノ・エレクトーン発表会 | 未 定 | 無 料 | 江見裕子 |
| 7/21(金) | ピアノ発表会 | 10：00～16：00 | 無 料 | みのり音楽園 |
| 7/23(日) | ピアノ発表会 | 13：30～16：30 | 無 料 | 石田公子 |
| 7/29(土) | ピアノ発表会 | 未 定 | 無 料 | 安藤起世美 |
| 7/30(日) | バイオリン発表会 | 未 定 | 無 料 | 兼信バイオリン教室 |

抽選会は、6/1（10～12月）・9/1（1～5月）・12/1（6～8月）・3/1（9～11月）です。

ただし、使用目的は、ピアノ発表会・バンド演奏会・演劇公演等、営利目的以外の催しに限ります。

会員……文化センター友の会及び文化振興会会員

平成12年度岡山県総合文化センター友の会会員を募集します。（詳細は文化センター総務課まで）

催物案内と文化センターニュースはホームページでもご覧になれます。